

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年9月14日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670102047号
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ
所在地	鹿児島県鹿児島市西陵6丁目21番21号 電話 099-283-0991
自己評価作成日	平成22年 5月 31日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com/">http://www.kagoshima-kaigonet.com/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成22年 7月 20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつでもその人らしく個人の意志を尊重し、入居者中心の介護をしていく事に力を入れています。周辺にスーパー、銀行、小・中学校、診療所、郵便局があるところに建てられたホームであり利便性が高く地域住民の通行も多い。その日の体調や、お天気を見ながら、散歩にでかけたり、集会・行事・見学などに参加する機会を多くもち、ホームだけ、地域の方とかかわりながら生活ができるように支援する事に力を入れています。身体的には日頃の身体観察・入居者の異常(小さなサイン等)も見逃さないようにし、病院・ご家族と連携し且つ、設置された24時間体制のホットラインで早めの受診対応を行っています。日課もだいたいの流れはあるが、その日の入居者の体調をみながら、希望を聞いたりして変更をしたり、柔軟な対応で自由に楽しい生活をしていただくように支援しています。

鹿児島市の郊外西陵の中心地にあり、スーパー、病院、学校、銀行など利便性の良い場所にある。住宅地にありながらホームは温泉で入浴が利用者の楽しみにもなっている。また、ホームの前のバス停で、バスを待つ学生や通学の子どもたちとふれあうことを楽しみにしている利用者もいる。地域との関わりもよくできており、町内会の総会、地域の防災訓練、清掃など、利用者とともに参加して事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。運営推進会議もスーパーの店長や派出所の署員、地域の民生委員、町内会長、家族、利用者など幅広い参加者で多方面からの意見や助言をもらい、利用者が自由に安全な暮らしを送れるよう、地域の理解を得て連携を図っている。ときには、運営推進会議を利用して認知症の勉強会や、参加者の方々の特技(踊り、わらべ歌、詩の朗読など)を披露するなど、参加者、利用者の楽しみにもなっている。道路を挟んだ2カ所のグループホームとは、互いに利用者とともに行き来するなど同業者との交流もあり、災害対策など相互に協力体制が話し合われている。開設して10年が経ち、地域の一員として受け入れられている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを踏まえた事業所理念を作っており、毎朝申し送り後に実践に繋がるように理念の唱和をしている。	理念のひとつに「あなたと家族の絆を地域の中で大切に支えていきます」とあり、地域密着型サービスとしての意義を理解した理念を作成している。玄関、ホール、事務所に掲示して重要事項説明書、パンフレットにも明記している。職員は、常に理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路沿いの生垣をいつも低く剪定し、通行されている。地域の方と接する機会を設けている。また地域の夏祭り、小中学校の文化祭を見学し触れ合う機会を持っている。	町内会に加入して、総会や地域の防災訓練、清掃活動などに利用者とともに参加している。町内会より老人クラブへの招待もあるなど、地域の一員として受け入れられている。ボランティアや中学生の職場体験学習の受け入れ、ホームの前を通る子ども達とのふれあいなど交流に努めている。	
3		事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の町内会の総会には職員と共に毎年出席している。運営推進会議で、地域の人にも参加していただき認知症の理解を深めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では率直な意見を聞き、申し送りで伝えている。ご家族に運営推進会議の開催日をはるかぜメールにてお知らせし、毎回参加していただく様声掛けをしている。	町内会長、民生委員、家族、職員、利用者、行政などの参加を得て2カ月に1回開催している。また、ときには交番の署員、隣接のスーパーの店長などの参加もあり、多方面からの意見やアドバイスなどもらっている。町内会の老人クラブへの参加提案や利用者の徘徊についての協力依頼など、地域との連携が図られ、利用者の自由で安全な暮らしに結びついている。運営推進会議を利用して認知症の勉強会なども行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の利用者がいる関係で入居時に限らず書類提出等はこちらが出向いたり、電話したりして担当者と連携してサービスの質の向上に努めている。	市の介護相談員の受け入れや、生活保護受給者についての相談、ヒヤリハット・事故報告など、日頃より連携を図り、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関も窓も鍵をかけていない。毎月ミーティングの後に行っている職場内研修で身体拘束について研修をしているので、職員全員が周知している。スピーチロックをしない、いつも家族が傍にいて聴いているような優しい声掛けの介護をしている。	安全上、やむをえない拘束については家族の了承のもとにおこなっているが、毎月、身体拘束委員会でモニタリングをし、継続か廃止かを検討するようにしている。外出の察知は、玄関を音が鳴るように工夫し、外出傾向の利用者には職員がさりげなく見守るなど、職員のチームケアや施錠などせずに安全で自由な暮らしを支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回のはるかぜミーティング後の職場内研修で以前、虐待を取り上げており職員全員が高齢者虐待防止法を周知している。新聞に掲載された虐待の記事も回覧している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月1回のはるかぜミーティング後の職場内研修でこの制度についてすでに取り上げている。今後はこのような制度の必要性に応じて活用できるよう支援していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約時には管理者、計画作成担当者二名で対応し、不安や疑問を聴き十分な説明を行い、理解、納得をされる様に努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営に対する相談・苦情の申し出の方法を掲示して苦情・相談箱も設けている。ご家族の面会時にはこちらから「何かありませんか?」と使いやすい雰囲気作りを心がけている。ご意見は運営に反映させている。</p>	<p>来訪時、ケアプラン更新時などに家族から意見、要望を聞き出すようにしている。出された意見、要望については運営に反映させている。利用者からは、日常の関わりの中で会話から要望などを引き出すようにしている。職員異動の報告などは毎月のホーム便りで行っている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや、朝の申し送り時に意見や提案がないか声掛けして、出た意見は運営に反映させるようにしている。</p>	<p>会議で意見をもらったり、気づきやささいな事もその都度管理者に報告している。職員間で共有すべき内容については朝の申し送りを1、2階合同で行い、利用者の情報の共有を図っている。また、入居については事前に職員に情報を提供して意見を聞いている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し資格手当等UPもなされている。やりがいなど向上心をもって働けるように申し出があれば勤務交替もしている。</p>		

鹿児島県 グループホーム はるかぜ 1ユニット

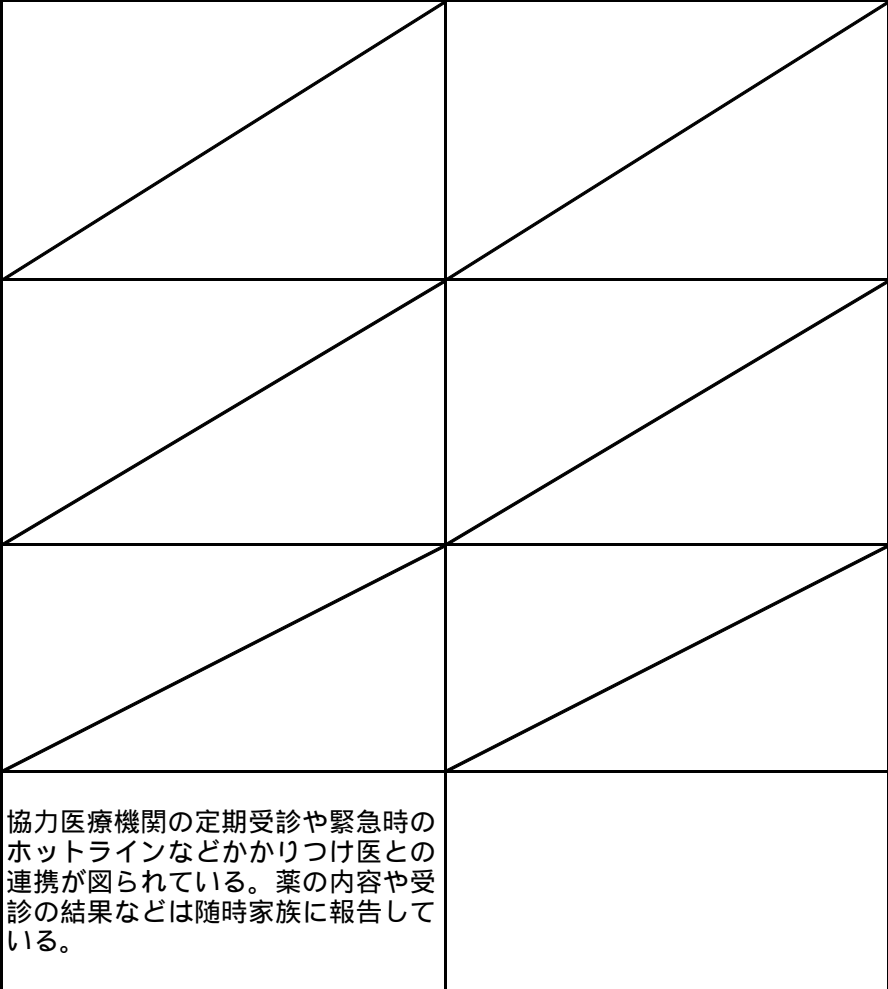
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修は夜勤者以外は全員参加している。法人外研修は勤務交替などして参加できるような取り組みをしており、研修に参加できる職員は多い。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣にある2つのグループホームの管理者と、入居希望者の紹介や行事参加の呼びかけ等を行う事によって合同でサービスの質の向上をしている。他系列の実施する勉強会に職員の参加を促し、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用を開始する以前に本人・ご家族と面会したり家庭訪問をして要望・不安を聞くようにしている。ゆっくり時間をかけて安心していただけるように説明をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>まず現在利用されているサービスなどを聞くことから始め、サービス利用を開始する際困っている問題など要望をしっかりと聞き安心される関係作りに努めている。電話相談よりも直接来所していただくよう声掛けをしゆっくり時間をかけてご家族の話に耳を傾ける。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス利用や入居条件などについて、電話での相談の問い合わせが非常に多いのでゆっくりと内容を聞き他のサービス利用の検討をしたり紹介なども行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は一緒に家事をしたり共に生活をする関係を築いている。職員は人生の先輩として尊敬の気持ちを持って接している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の面会時には部屋に案内し職員も一緒にお茶を飲んだりしながら日々の生活の様子を伝えている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居する前のなじみの知人が面会にこられる場合も部屋に案内し関係が途切れないように支援している。</p>	<p>利用者の友人、知人が訪ねやすい雰囲気作りに努め、なじみの人や場所との関係継続の支援を行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲のよい利用者同士の関係性を保つためや、反対に仲の悪い利用者同士の関係性の悪化防止のため食堂のテーブルの配置を考え、変更したりして関わりあえるようにしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用 契約 が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了したり、他の事業所へ移動されたり、入院されたりしたときは管理者・職員は色紙や歌詞カードを届けたりして移動先のS・wと今後に向けてのことなどの相談・助言をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居契約時一人ひとりの思いや暮らしや希望を本人・ご家族に必ず聞くようにしている。日常生活も本人に1つ1つ聞いて支援している。</p>	<p>職員が一方的な決定はせず、こちらから話題を投げかけて言動や表情などから把握して本人本位に検討している。また、利用者の情報は申し送り時やお茶の時間などの話題で職員間で情報の共有を図り、思いや意向の把握に努めている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時は自宅訪問をしたりして本人・ご家族・関係者から聞きこれまでの生活環境・生活歴・職歴を把握するようにしている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>お一人おひとりの日勤帯の睡眠や身体状況を夜勤帯へ、夜勤帯の睡眠や身体状況を日勤帯へ細かく申し送りを徹底し、心身両面を総合的に判断して援助している。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>プランは全職員とカンファレンスし本人をはじめご家族の意見も聞き作成し読んでもらっている。必要に応じ内容を変更して新しい課題が発生したりした時はすぐカンファレンスしプラン作成に繋げている。</p>	<p>本人や家族の思いや希望、職員の意見など反映した、本人本位の介護計画を作成している。また、毎月モニタリングを行って、現状に即した介護計画を作成している。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の状態観察（食事・排泄・心身状況・認知の行動障害）について援助の内容を個別に記録してケア・見直しに活かしている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時々状況にあわせて1日の業務にとらわれず、外出、レクレーションを実施して柔軟なサービスをしている。</p>			
29	<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるように地域の行事なども入居者に伝え運営推進会議などでも町内会長、民生委員の方の活動・情報などを発表してもらっている。</p>			
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>本人・ご家族が希望されるかかりつけ医となっている。毎日バイタルチェックし、週1回Drに上申し、月1回の定期受診をしている。緊急時のホットラインも設置してある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職員に看護師がいる。容態急変時の早めの気付きもあり、早期受診して適切な医療・看護を受けられる体制にある。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が入院した際は管理者・職員がお見舞いに行き、経過や今後について等も病院のSWと相談・連携をとって安心して治療できるよう関係作りを行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化したりしたときや、終末期にむけての話は、必要になったとき随時かかりつけ医と相談した上で、ご家族に相談するようにしている。ターミナルについては事業所として今後、どの様にするか現在、準備段階である。</p>	<p>入居時に、重度化や終末期に向けたホームの方針を説明して同意をもらっている。また、緊急時の搬送先も聞いている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時は事業所独自のマニュアルが作ってありホットラインも設置してある。月1回のミーティング後、緊急時の対応の研修も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練と年1回の地震避難訓練の計画書を作成し消防署の立会いのもと地域との協力を得て実施している。</p>	<p>地域の防災訓練に利用者とともに参加したり、自主訓練として、地震の訓練なども行っている。道路を挟んだグループホームを含めて3カ所で災害時の協力体制が話し合われている。非常持ち出し袋や頭巾などの準備もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者を含め全職員はプライバシーに配慮し自尊心を傷つけない声掛けをして人格を尊重した対応を心がけている。職員は毎朝介護理念を唱和して人格を尊重した対応を心がけている。	内部、外部研修にて接遇、個人情報の勉強会を定期的に行っており、資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や好みを把握し利用者が自分の気持ちを出しやすい雰囲気作りを心がけている。表出出来ない方は表情などのサインを見逃さないようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	幼少の出生地・教育歴・職歴・生活パターンなどをご家族から聴取して詳細に把握するように心がけている。利用者のその日の体調・気分を見て支援している。利用者と同じ目線で信頼関係を大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご家族と本人の希望を聞きカット・毛染めも近くの美容室の訪問カットを利用している。月1回地域の化粧ボランティアもきてもらっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好も取り入れ献立を立てている。飲み物やおやつも好みを取り入れ楽しい食生活をされている。おやつもなるべく手作りを心がけている。	安全で楽しい食事となるように、できるだけ手作りのものを提供している。また、ときには家庭菜園でできた野菜が、食卓に並ぶこともある。気分を変えて、外食(かき氷、そば、イタリアンレストラン、ソーメン流しなど)を楽しむこともあり、利用者の楽しみのひとつになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は野菜を多く取り入れバランスのよい栄養摂取に心がけ、献立や食事量、水分量も記録し次の勤務者に申し送っている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>職員は自立支援を周知し、出来ない事のみを介助している。毎食後、自室の洗面台に案内し義歯洗浄を徹底し口腔清潔に努めている。口腔内清掃の出来る人は見守りをしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>1人ひとりの排泄パターンを職員は把握し尿取りパット使用を減らしトイレでの排泄の自立にむけた支援をしている。</p>	<p>こまめな声かけ誘導による排せつの自立を支援している。排便については個々のサインを見逃さず対応している。排尿量についても疾病などで必要な利用者は、毎朝の申し送りで情報を共有している。基本的にはおむつ使用はしない方針である。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>繊維の多い食品や果物を献立に取り入れ水分摂取の声掛け、便秘予防に向けて取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	当事業所は温泉であり、入浴日は設定せず、状態や本人の希望で入浴が出来るようにしている。	24時間いつでも温泉で入浴ができ、利用者の楽しみになっている。毎日、入浴する利用者もあり、個々に応じた入浴の支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの状態を様子観察し仮眠をとってもらったり夜間の安眠確保の為に日中の活動を促すレクリエーションを行い安心してよく眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとり薬の内容、目的、副作用、用法用量について理解しており、飲み残し・漏れがないように全介助で与薬し状態の変化に注意している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりできる役割、楽しみごとを把握し一緒に行うようにしており、出来たときは評価し必ずお礼を述べるようにしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車で他の入居者と乗り合わせての定期受診や、本人の希望を聞いて地域の公園などにも随時散歩にいたりして、自由な生活を支援している。	隣のスーパーに買い物に行ったり、散歩など日常的な外出を支援している。また、外出日を設けて、花見、外食、仙巖園、木市、ハンヤ祭り、夜のイルミネーション見学などに出かけたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を自分で管理できる利用者はいないがお金を心配され職員に聞いてこられる入居者には金庫まで連れて行き「この中にありますよ」といい、安全に保管していることを随時伝えている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族からかかってきた電話はすぐ出ていただき、電話がしたいとの希望があればかけてあげる対応をしている。手作りの年賀状作成もレクレーションで取り入れご家族へ出している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関・ホールには2人掛3人掛けのソファや畳を敷き直射日光を避けるレースのカーテン・壁には季節に合わせたレイアウトを利用者と共に作り、家庭的な空間で居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は利用者にとってリラックスできるように配慮されており、落ち着いた雰囲気がある。感染症と臭気対策として、次亜鉛素酸ソーダで拭きとりをするなど、清潔で居心地のいい空間作りに配慮している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるホールの広さがあり3人掛け・2人掛けのソファ、椅子・畳も設置し居心地のよい空間づくりをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、自宅で使用していた家具も居室に置いてあり、季節に応じた夜具もご家族が本人と相談の上で調節して居心地よく過ごされるようにしている。	家族と話し合っ居心地良く過ごせるように居室を工夫している。時計、仏壇、ソファ、椅子、テーブル、猫好きの利用者の居室は猫のぬいぐるみがあるなど、それぞれに個性的な居室作りがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、ホール、廊下のどこからみても1人ひとりの様子が窺える環境が整っていて「出来る事」は見守りし、できるだけ自立した生活が送れるように、工夫し支援している。		



アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36,37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない